内閣府青年国際交流事業について

～次世代グローバル・リーダーを目指して～

内閣府 青年国際交流担当室

今日お話しすること

- ✓ 内閣府青年国際交流事業とは
  - 多種多様な5つの事業
  - 事業参加後の活動
  - 世界で活躍する既参加青年
- ✓ 2026年度日本代表青年 募集の概要
  - 応募要件
  - 事業参加決定前後の流れ
  - 代表青年に求められる資質・能力

内閣府青年国際交流事業とは

日本政府が主催する国際交流事業です。

将来、国際社会等における課題解決を主導する
グローバルリーダーの育成を目的として、

- ✓ 社会課題に関するディスカッションや視察
- ✓ 各国政府要人等への表敬訪問
- ✓ 文化交流

等からなるプログラムを実施します。

多種多様な5つの事業

① 国際社会青年育成事業

② 日本・中国青年親善交流事業

③ 日本・韓国青年親善交流事業

④「東南アジア青年の船」事業

⑤「世界青年の船」事業

① 国際社会青年育成事業

- ✓ 1959年の上皇上皇后両陛下の御成婚に由来する、<u>テーマ特化型の事業</u>です。
- ✓ 世界各国が抱える課題をテーマに設定し、テーマに関連した特徴的な取組を行う国との間で青年の派遣・招へいを行うことで、<u>様々な分野の課題解決に寄与する人材の育成</u>を図ります。

～ 令和7年度プログラムの様子（交流国プログラム）～

ドイツ（テーマ：高齢社会）

フランス
（テーマ：バリアフリー・ユニバーサルデザイン）

イタリア（テーマ：障害者）

ホームステイで
現地の暮らしを体験

高齢者が生活の足として
簡単に利用できる乗り物
を視察

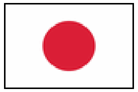
2024年のパリ・
パラリンピックで使用
された会場を視察

現地の青年とも交流

イタリアの障害者
担当大臣を表敬訪問

障害者やその家族も楽しめる
ビーチの休息エリア内を移動
できるリフトを体験

～ 令和7年度プログラムの様子（日本プログラム）～



地方プログラム：4日間
（外国青年のみ、
大分県・鳥取県・新潟県のいずれか1県）
東京プログラム：3日間
（日本青年・外国青年合同）

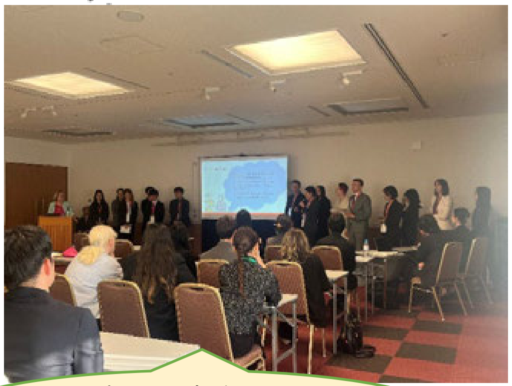
新潟県庁を
表敬訪問

歓迎会
ホームステイマッチング

テーマに関連する
施設を訪問

外国青年が内閣府にて
日本の高齢社会対策に
ついての講義を受ける

日本青年と外国青年が
それぞれの国で学んだ
ことを話し合う



成果発表会にて
プログラムの成果を披露

文化交流レセプション

② 日本・中国青年親善交流事業

- ✓ 1978年の日中平和友好条約の締結を記念し、1979年度以来、中国政府との共同事業として実施しています。
- ✓ 日本及び中国青年が相互に相手国を訪問し、ディスカッションや文化交流等の活動を行うことで、次世代グローバルリーダーに必要な能力の向上と両国青年の相互理解・友好の促進を図ります。

～ 令和7年度プログラムの様子（日本プログラム）～

埼玉県副知事を
表敬訪問

テーマに関連する施設を訪問
（しょうゆパーク）

体験交流プログラム
（グリーンツーリズム）

東京プログラム：３日間
地方プログラム：２日間（埼玉県）

日本青年企画による都内散策

テーマに関連する施設を訪問
（人材活用を支援する）

～ 令和7年度プログラムの様子（中国プログラム）～

浙江省共青団委員会
（青年連合会）幹部への表敬

浙江省青年連合会主催歓迎会

杭州人工知能タウン訪問

魯迅故里訪問

ディスカッション

中国プログラム修了式

③ 日本・韓国青年親善交流事業

- ✓ 1984年の日韓共同声明の趣旨及び1985年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、1987年度以来、韓国政府との共同事業として実施しています。
- ✓ 日本及び韓国青年が相互に相手国を訪問し、ディスカッションや文化交流等の活動を行うことで、次世代グローバルリーダーに必要な能力の向上と両国青年の相互理解・友好の促進を図ります。

～ 令和7年度の活動の様子（韓国プログラム）～

日韓の青年同士の
友情を繋ぐ

韓国政府を訪問して
政策を学ぶ

韓国の青年との
ディスカッション、
プレゼンテーション

施設訪問
・
ホームステイ

～ 令和7年度プログラムの様子（日本プログラム）～

山形県にて花笠体験

日韓両国青年による
ディスカッション

大阪府にて
お好み焼きづくり体験

成果発表会にて
プログラムの成果を披露

日韓国交正常化60周年
記念青年交流レセプション

地方プログラム：6日間
（外国青年のみ、大阪府3日間・山形県3日間）
東京プログラム：3日間
（日本青年・外国青年合同、「日韓青年親善交流のつどい」）

④「東南アジア青年の船」事業

- ✓ 1974年の日本とASEAN各国との共同声明に基づき、各国政府の共同事業として開始されました。
- ✓ 日本及びASEAN各国の青年が、船内で共同生活を行いつつ、ASEAN各国に寄港し、ディスカッションや文化交流、表敬訪問等の活動を行います。
- ✓ 各国から選び抜かれた青年との切磋琢磨の中で、国際社会をけん引する人材を育成します。

～ 令和7年度の活動の様子（日本プログラム） ～

富山県庁を表敬訪問

岩手県で日本文化を体験
（「さんさ踊り」）

高市内閣総理大臣を
表敬訪問

写真出典：首相官邸HP

地方プログラム：4日間
（長崎県、徳島県、富山県、千葉県、
岩手県のうちいずれか1県）
東京プログラム：6日間

長崎県にて
平和学習

徳島県庁を表敬訪問

千葉県でいちご狩り

～ 令和7年度の活動の様子（船上プログラム）～

ディスカッション活動にて、
課題別視察の成果を報告

共に学ぶ
「ピア・ラーニング・セミナー」

船の中でも顔を
つきあわせて、真
剣に議論

デッキにて
星空見学会

パフォーマンスを交えて
自国の文化を発表

船上はインターネットが繋がらない
ため、参加者同士は文書箱を通じ
てやりとりをする

各国の代表青年として、
国旗を掲揚する

～ 令和7年度の活動の様子（寄港地プログラム）～

タイの国会議事堂を見学

タイ料理づくりを通じた
地元青年との交流

テーマ別視察にて
意見交換

歴史ある寺院を見学

シンガポール政府主催
歓迎夕食会

文化・地域・青少年
担当代理大臣への
表敬訪問

タラップにて
パフォーマンス披露

⑤「世界青年の船」事業

- ✓ 1967年度に明治百年記念事業の一つとして開始された「青年の船」事業に由来する事業です。
- ✓ 日本及び世界各国の青年が、船内での生活や寄港地における活動を共にしながら、各国が共通して抱える社会課題の研究・ディスカッションや文化交流等の活動を行うことで、国際社会や地域社会の課題解決を背負って立つ人材を育成します。

～ 令和7年度の活動の様子（船上プログラム）～

コース別にディスカッション

船内では様々な
交流で友好を深める

歌や踊り、劇を交えて
自国の文化を紹介

ピア・ラーニング・セミナー

～ 令和7年度の活動の様子（寄港地・東京プログラム）～

Hello SWYにて
愛知県の紹介

徳川ミュージアム
を訪問

佐藤内閣官房副長官
を表敬訪問

地元青年と
剣道体験

首里城を訪問

フェアウェルパーティーにて
地元青年からお別れの挨拶

沖縄科学技術大学院大学
（OIST）を訪問

寄港地（地方）プログラム：3日間（沖縄県）、5日間（愛知県）
東京プログラム：4日間

事業参加後の活動

内閣府青年国際交流事業の参加青年には、日本を代表して事業に参加した者として、<u>各々の属する職域や地域に事業参加によって得たものを還元する</u>とともに、<u>継続的に自己研鑽に励み</u>、<u>各分野において国際社会や地域社会をけん引するグローバルリーダーに成長する</u>ことを期待しています。

各界で活躍する既参加青年

内閣府青年国際交流事業の既参加青年は、事業で得た経験やネットワークを自身のキャリア形成等にいかし、様々な分野（※）で活躍しています。

※ 国会議員、自治体の首長、大学教授、民間企業役員、NPO法人代表、起業家、外交官、国際機関職員　等

既参加青年の活躍にご興味がある方は、青年国際交流担当のHPに掲載されている、インタビュー調査をご覧ください。

★ 内閣府青年国際交流事業　既参加日本青年・外国青年インタビュー調査報告書

https://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/research/index.html#r02id3

2026年度日本代表青年募集概要

	実施の有無	募集人数
国際社会青年育成事業	あり	24名程度
日本・中国青年親善交流事業（※）	未定	未定
日本・韓国青年親善交流事業	あり	20名
「東南アジア青年の船」事業	あり	30名程度
「世界青年の船」事業	なし	なし

※ 決まり次第、内閣府HP等でお知らせします。

国際社会青年育成事業（2026年度）

<日程> 2026年10月11日～23日（13日間、予定）

<人数> 24名程度 ※外国青年：24名程度

<総括テーマ> 孤独・孤立対策

<交流国> ①ドイツ（小テーマ：地域におけるつながりづくり）

②リトアニア（小テーマ：若者や現役世代の孤独・孤立の予防）

<内容> ディスカッション・視察、政府機関への表敬訪問 等

<使用言語> 英語

<参加費> 22万円程度

特にこんな人におススメ!!

- ✓ 現在、孤独・孤立対策や関連する分野の課題解決に関わっており、プログラムでの学びを実務に生かしたい
- ✓ 将来、孤独・孤立対策や関連分野の課題解決に取り組みたい
- ✓ グローバルリーダーに必要なディスカッション能力を向上させたい

★ 日本青年は2団に分かれて行動し、各団がそれぞれ1か国に派遣される。

日本・韓国青年親善交流事業（2026年度）

<日程>　2026年9月7日～16日（10日間、予定）

<人数>　20名　※韓国青年：20名

<テーマ>　人々のつながりとデジタル社会（予定）

<内容>　ディスカッション、文化交流、ホームステイ　等

<使用言語>　日本語（日韓通訳あり）

<参加費>　7万円程度

特にこんな人におススメ!!

- ✓ 将来、韓国との友好親善の架け橋となって活躍したい
- ✓ 韓国の社会や文化、歴史について理解を深めたい
- ✓ テーマに関する理解を深めたい

「東南アジア青年の船」事業（2026年度）

＜日程＞　　2027年1月4日～2月4日（32日間、予定）

＜人数＞　　30名程度　※外国青年：20名程度×10か国（予定）

＜テーマ＞　　応募要領を参照（8つから1つを選択）

＜寄港地＞　　カンボジア、マレーシア、フィリピン（各2～3日程度）

＜内容＞　　ディスカッション・視察、各国要人表敬、文化交流　等

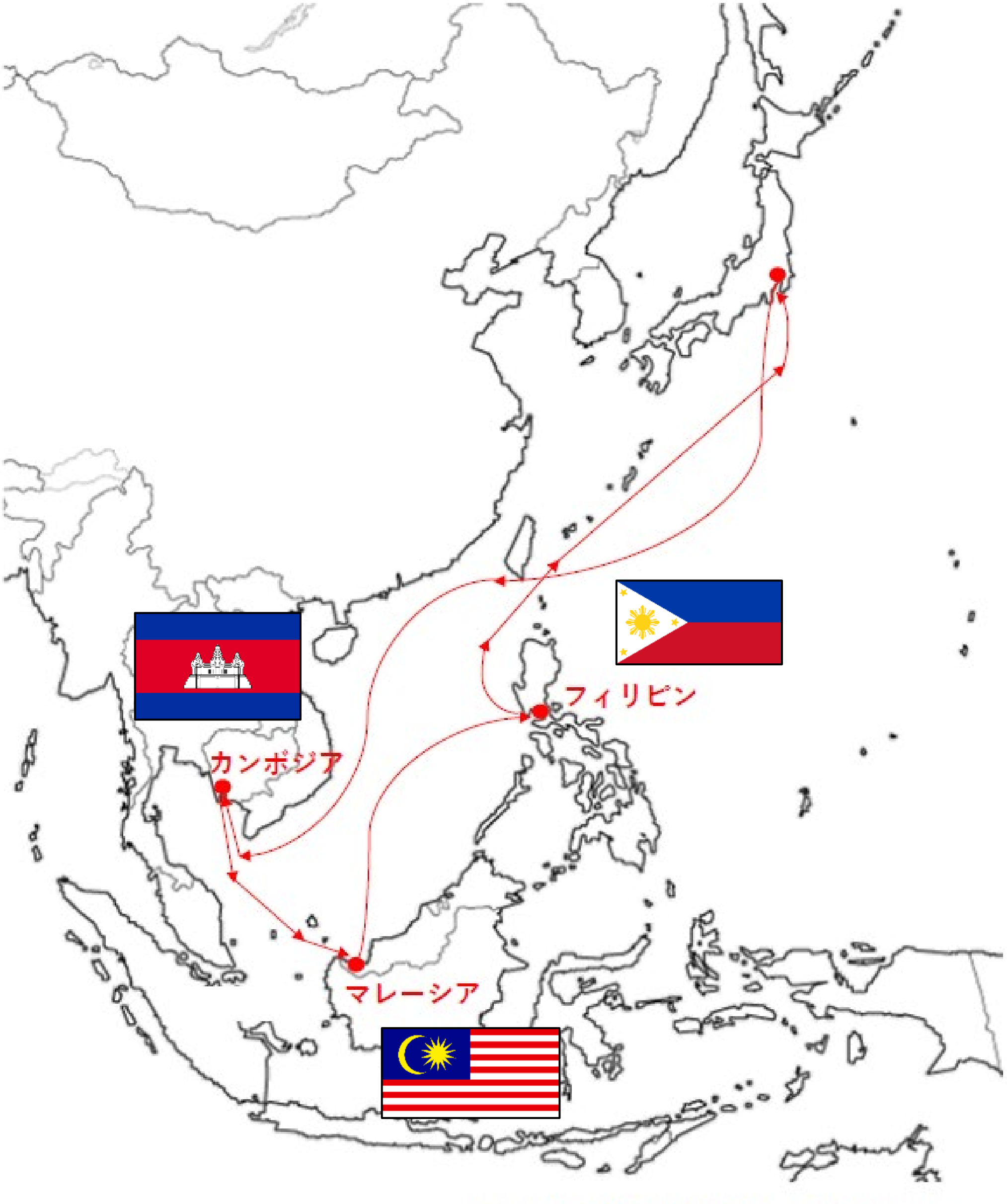
＜使用言語＞　英語

＜参加費＞　　36万円程度

特にこんな人におススメ！！

- ✓ 将来、東南アジアや国際社会における課題解決に関わりたい
- ✓ 将来、東南アジアとの友好親善の架け橋となって活躍したい
- ✓ テーマに関する理解を深めたい

～「東南アジア青年の船」事業（2026年度）航路図 ～



＊天候やその他の事情で航路が変更となる場合があります。

応募要件

- ✓ 日本国籍を有すること
- ✓ 2026年4月1日現在、18歳以上30歳以下（※1）
- ✓ 交流活動を円滑に行える英語力があること（※2）
- ✓ 原則として、事業の全日程に参加できること
- ✓ 事業参加後、その経験を活かした各種活動に継続的に取り組む意思があること
- ✓ 事業効果の把握のための各種調査に継続的に協力する意思があること　等

（※1）国際社会青年育成事業について、一定の要件を満たす場合は40歳以下も可

（※2）国際社会青年育成事業及び「東南アジア青年の船」事業のみ

事業参加決定までの流れ

応募締切@4月中旬

一次選考（書類審査）@4月下旬

二次選考@5月上中旬
- WEBテスト
- 個人面接
- 英語グループ面接（使用言語が英語の事業のみ）

※ オンライン実施

三次選考@5月下旬
- グループディスカッション
- 個人面接

※ 原則、対面実施@内閣府庁舎（東京）

日本参加青年決定@6月中旬

内閣府HPにある応募方法をご覧いただき、
- 応募フォームへの入力
- 参加申込書の提出（メール） をお願いします。

提出締切：4月17日（金）12時
応募フォーム入力締切：4月15日（水）12時
※応募フォームの入力がないと参加申込書の提出は受け付けられません!!

事業参加決定後の流れ

2026年7～9月
事前研修

合宿形式にて実施@都内

2026年9月
～2027年2月
事業への参加
（直前・直後の研修と
報告会を含む）

事業参加後
事業の経験を生かし、
各職域・地域での活動
や自己研鑽を継続

グローバルリーダーとして、
国際社会や地域社会で活躍

参加青年に求められる資質・能力

次世代グローバルリーダー候補として、

以下の資質・能力を備えた青年の参加を期待します。

視野の広さ、洞察力、自己分析能力、行動力、専門性、

コミュニケーション能力、ファシリテーション能力、

語学力、柔軟性、向上心、粘り強さ・ストレス耐性

※詳しくは、応募要領をご覧ください

よくある質問①

Q．全日程に参加する必要がありますか？

A．原則として、研修や報告会を含む全日程の参加が必須です。学業や業務の都合等でやむを得ない場合には、事前に内閣府の承認を得た上で、一部の日程を欠席することが可能です。

Q．参加費の補助・減免の制度はありますか？

A．経済的に参加が難しい方を対象とした、参加費の免除制度があります。詳しくは応募要領をご覧ください。

よくある質問②

Q．他事業との併願はできますか？

A．できません。

Q．英語力はどのくらい必要ですか？

A．英語での交流となる国際社会青年育成事業・「東南アジア青年の船」事業は、交流を円滑に行えるだけの一定の英語力が必要ですが、事業への参加に当たっては、英語力以上に、外国青年と積極的に交流を行う意欲のある方をお待ちしています。

よくある質問③

Q．参加したいのですが、所属先（企業、研究室等）の理解を得られるかが不安です。どうすれば良いでしょうか。

A．基本的には、全プログラムに参加できることが応募の前提ですが、やむを得ない場合には、事前に内閣府の承認を得た上で、一部の日程を欠席することが可能です。懸念点がある場合には、ひとまず応募した上で、二次選考の面接時にご相談ください。
また、内定後、必要に応じて内閣府から所属先に対して事業の意義・内容や協力のお願いを記載した文書を発出することも可能です。詳細は内定後にお示しします。

よくある質問④

Q．公務員ですが、事業に参加できますか。

A．<u>ご参加いただけます</u>。

これまでの参加者には、職務の一環として研修で参加した方も休暇を取得して参加した方もいらっしゃいます。<u>本事業への参加の取扱いについては、所属先の人事担当者とご相談ください</u>。

最新情報はSNSで発信しています!!

今後、事業紹介に加え、各界で活躍する既参加青年等

についても投稿予定です。

是非フォローしてチェックしてください!!

Instagram

Facebook

X

グローバル・リーダーを目指す

皆さんのご応募をお待ちしています!!

(4月17日(金)12時締切です!)

検索	内閣府　青年国際交流